

国立公園の情報発信におけるアクティブ・レンジャー日記の現状

—3 国立公園（日光、小笠原、富士箱根伊豆）の公式ホームページとの比較を通して—

Current Status of the Active Ranger Web Journal as the National Park Information Provision
-Comparison with the Official Website of 3 National Parks (Nikko, Ogasawara and Fuji-Hakone-Izu)-

李 定遠
LI DINGYUAN

1. はじめに

(1) 研究背景

国立公園の利用者数は1991年の約4億人をピークから減少している傾向はある一方で、利用方式は自然風景の本質を求める自然体験ツアーなどに転換するようになった。そのため、国立公園の自然魅力の伝え方の更新とブランディングによる利用者誘致は重要な課題と認識された¹⁾。また、国立公園の公式ホームページ（以下は、HPと示す）を重要な発信ツールと位置づけ、外部のウェブサイトとの比較を行った研究²⁾があるが、公式HPの内部にあるコンテンツの相互関係に関する既往研究はまだ少ない。

アクティブ・レンジャー制度（以下は、A・Rと記す）は2005年に自然保護官（レンジャー）による現地管理を補佐する有償の国家公務員として導入され、国立公園内の巡視を含めた現場管理と国立公園の魅力発信という役割を担っている。また、A・Rの課題として、人手不足や現場経験の浅い若い世代の高い割合や雇用の不安定さは取り上げられた。

インターネットは高い普及率を持ち、重要な情報収集ツールとして認識されているなかで、ブログは個人で簡単に発信が可能で、膨大な情報量を有することから、重要な情報源となった。A・R日記はA・Rの国立公園の魅力発信を果たす具体的な取り組みの一つであるが、その導入経緯や開設状況はまだ不明である。そして、公式HPからリンクされているが、A・R日記と公式HPとの掲載内容の相互関係も明らかになっていない。さらに、A・R日記はA・Rが日々の業務で考えたことや国立公園の状況について情報発信という記載はあるが、具体的な執筆方針、特に掲載頻度、掲載された自然資源とブランディングの反映に関する現状は明確ではない。

(2) 研究目的

本研究は、3つの国立公園を対象に、A・R日記の開設経緯及び運営状況を確認したうえで、A・R日記と公式HPに掲載された自然資源とブランディングに関する情報提供を比較することで、A・R日記の情報発信の現状の解明および公式HPの情報補足としての可能性を検討することを目的とする。

(3) 研究対象地

本研究は、関東地方環境事務所管内の国立公園のうち、利用者が最も多く、世界文化遺産を有し満喫プロジェクト推進地である富士箱根伊豆国立公園、世界文化遺産を有し満喫プロジェクト推進地である日光国立公園、世界自然遺産登録地でエコツーリズム推進地である小笠原国立公園という3国立公園を研究対象地とする。

(4) 研究方法

本研究では、関東地方環境事務所への聞き取り調査、A・R日記と公式HPの掲載件数集計とA・R日記へのテキスト分析を主な研究方法として実施した。

2. A・R日記の導入経緯と記事の公開状況

まず、A・R日記の導入経緯と執筆方針について、行政文書開示サイトであるe-GOVポータルでキーワード検索と関東地方環境事務所への聞き取り調査を行った。その結果、2004年にA・R制度の試行、同年度にブログの流行と2005年に地方環境事務所の設置という導入経緯が明らかとなった。また、執筆方針は統一されていない現状を確認した。

A・R日記の公開状況については、2021年3月31日までのA・R日記を分析対象として、A・R日記を導入された国立公園数、自然保護官事務所数、投稿者数と掲載数を集計した。その結果、A・R日記は全34の国立公園で投稿され、9,414件の膨大な現地情報が蓄積されていることを確認した。

3. 3国立公園を事例としたA・R日記の現状分析

まず、掲載頻度について、投稿者であるA・Rの雇用期間を元に共通した2021年3月31日まで分析期間に設定し、3国立公園のA・R日記をデータベース化し、国立公園、エリアおよび年度別に掲載数を集計した。その結果、3国立公園のA・R日記の掲載開始時期は不一致で、国立公園及びエリアによって、掲載頻度の差はあることを確認した。

次に、掲載された自然資源について、A・R日記をKHcoderに導入してから、自然資源の抽出、自然資源の位置情報の確認、重要視されている自然資源である特徴資源の抽出と特徴資源の掲載時期の確認という手順で分析した。その結果、最頻出の「山岳」

と「島嶼」の時期的な景色の変化と利用情報の掲載、上位の自然資源と上位の特徴資源との一致性は高く、特徴資源の掲載時期は長いことを確認した。

さらに、掲載されたブランディング情報について、世界遺産関連が最も多くて、ブランディングの掲載度合いは国立公園によって、差があるのは分かった。

4. 3国立公園を事例とした公式HPの現状分析

まず、公式HPのリニューアルについて、国立公園に関する情報提供は機能別に分けられるというような特徴を確認した。そして、3国立公園の公式HPのコンテンツ構成については、3国立公園のHPに含めた13項目のうち11項目が共通することから、コンテンツ構成は統一されていることを確認できた。

次に、3国立公園の公式HPの掲載頻度について、「ニュース&トピック」を国立公園とエリア別に掲載件数を集計した結果、3国立公園の公式HPは同時期に掲載され、掲載頻度は国立公園及びエリアによって、差があることを確認した。

次に、3国立公園の公式HPに掲載された自然資源について、A・R日記の分析と同様の手順で分析した。その結果、「動物・植物」の最頻出、上位の自然資源と上位の特徴資源との高い一致性、特徴資源に関する時期的な掲載が少ないことが確認できた。

さらに、掲載されたブランディング情報について、3国立公園の「公園の特長」による世界遺産を掲載された一方で、「ニュース&トピック」では、国立公園ごとに掲載されたブランディングはそれぞれ違ったという特徴があることを確認できた。

5. A・R日記と公式HPの比較

まず、掲載開始時期と掲載頻度は、公式HPは一致かつ頻度が低い一方、A・R日記は不一致かつ頻度が高いという相違点を確認した。

次に、3国立公園の掲載された自然資源は、公式HPの最頻出は「動物・植物」であるが、A・R日記では「山岳」や「島嶼」である。また、公式HPに掲載されていない資源はA・R日記では確認できた。

さらに、3国立公園に掲載されたブランディング情報について、3国立公園の公式HPでは、世界遺産の登録条件を掲載されたが、小笠原国立公園と富士箱根伊豆国立公園のA・R日記では、世界遺産の現地情報と保全管理に関する情報提供を確認できた。

6. まとめと総合考察

A・R日記は全国国立公園で導入されており、膨大な現地情報蓄積を有する一方で、執筆方針は統一されていない現状が示された。また、3国立公園の公式HPに比べると、A・R日記の掲載頻度が高く、公式ホームページに記載されていない資源を有し、世界遺産に関する現地情報と保全管理情報が多いという特徴を確認した。

今後は、A・R日記が現地記録として活用するという方向性づけで、気候変動の影響や利用者の動態などによる現地情報の把握とその管理に有益と考えられる。また、A・R日記で掲載された自然資源で公式HPと細かい相互リンクの貼り付けを通して、それぞれの掲載情報の補完または利用者の興味に応える情報提供も可能と思われる。さらに、A・R日記に掲載されたブランディング情報に関する執筆方針が統一できれば、国立公園のブランディング認識向上にもつなげると期待できる。一方で、これから全国国立公園に開設されたA・R日記の現状を分析する際に、研究対象地の拡大、ブランディングと国立公園の関係性とA・R日記に対する質的なテキスト分析について検討する余地はあると考えられる。

参考文献

- 1) 環境省：今後の自然公園制度のあり方に関する提言、2020
- 2) 長谷川学,島村章夫,伊藤弘,小野良平：ウェブサイトにもみる国立公園の情報提供に関する現状と課題、ランドスケープ研究72(5)、pp.821-823、2009

Abstract:

The purpose of the study is to reveal the current status of the Active Ranger Web Journal as the National Park information provision and the possibility of supplementing the official website of National Parks. Interview survey, counting analysis and text analysis were surveyed mainly through the comparison with the 3 National Parks (Nikko, Ogasawara and Fuji-Hakone-Izu). As a result, wide range and huge accumulation of the launching had been revealed. In addition, it is shown that the information of the field situation and the natural resources in the Web Journal would be useful for the information collecting and the management of the National Parks by setting the applying direction and linking the Web Journal to the official website of National Parks. And the understanding of the National Park as branding would be improved by unifying the posting guidelines of branding related information.